協働の森づくり協定締結

湯前町 (株)紅中 新たに1・14ヘクタール整備へ

湯前町の町有林で協働の森づくりを進めている同町と建材総合商社㈱紅中（大阪市）は26日、新たに町有林内の1・14㌶の森林整備を進めるため、第5期「くれないの森ゆのまえ」森づくり協定を締結した。

両者は平成23年5月、熊本県が策定した「企業・法人等との協働の森づくり指針」に基づき協定を締結。町有林1・85㌶でスギやヒノキなどの植林や下草刈りなどの森林整備活動と人的交流活動を展開。

同協定の期限が来年3月で満了することに伴い、協定期間を同28年度から同32年度までの5年間とする協定を結ぶことにした。今後、町有林1・14㌶で植林などの森林整備活動を実施し、総費用約400万円の半分を同社が支援する。

同町では、日本たばこ産業㈱（JT）とも同様の協定を結んでおり、これらの森林保全のための取り組みは、10月に京都府で開催された全国育樹祭の「ふれあいの森林づくり表彰」で国土緑化推進機構会長賞を受賞している。

調印式は午前10時から同町の八勝寺で行われ、県や町の職員、同社の幹部社員ら約40人が出席。鶴田正已町長、同社の中村暢秀会長、球磨地域振興局の福山武彦局長が阿弥陀堂内で協定書に署名した。

中村会長は、品質確保の国産材供給を目的に同町の林業事業体と共同で取り組んでいる「SSDプロジェクト」を紹介し、「これからも